

JASIS

NEWS

No. 76

2025/8/29

日本インテリア学会会報

■会長挨拶

学会会長 横山勝樹（女子美術大学）

日本インテリア学会第37回大会（関東・東京）が11月8日から9日まで東京都市大学世田谷キャンパスで開催されます。実行委員長の高柳英明先生はじめ、お忙しいところ大会準備にご尽力を賜った関東支部の皆さまに改めて御礼を申し上げたいと思います。発表会場、見学会や懇親会での研究交流を活発に行うことを通して、関東支部の皆さまのご尽力に応えたいと思っています。大会中の見学会はカリモクコモンズ東京とカリモクリサーチセンターが、記念講演会は建築家の永山裕子氏のご講演がそれぞれ予定されているそうです。魅力的な企画が用意されていますので参加される会員の皆さまも、東京大会を大いに楽しみにされていることだろうと思います。また今年度も32回目となる卒業作品展が大会初日からWEB上で開催されます。昨年度は多様な優秀作品が揃い受賞者が増えました。今年度もたくさんの力作が作品展に集うことを期待しています。

さて大会は毎年各支部の持ち回りによって開催されていますが、昨年2月から副会長の片山勢津子先生のお声かけにより支部長会議がオンラインで開催されるようになりました。お忙しい先生たちの集まりでスケジュール調整は大変だと思いますが、これまでに4回ほど開催されています。私も毎回陪席させていただいています。本学会くらいの会員規模で全国八つの支部が独自の活動をしているのは稀有なことだと思います。毎回それぞれの支部の活動内容が報告されていますが、ゲストスピーカーによる講演会、見学会や学生発表会の開催など活動は多岐にわたります。開催にあたっては地域の他団体と共催された催しもあれば、インテリア学会の二つの支部

の交流事業として行われた催しもあり運営方法もさまざまです。支部会員の少ない地域もありますが、オンラインによる発表会を検討されている支部長もいらっしゃいます。

この支部長会議はあくまで支部間の情報交換の場ではありますが、インテリア学会全体の活動についても活発な意見交換がされています。これまでに論文報告集や会員資格についての建設的な意見もできました。支部長会議で出た意見は片山副会長が総務委員会の場で報告されていますので、それぞれの課題を検討する常設委員会の先生にも伝わっています。会員の皆さまには、ぜひ積極的にそれぞれの地域の支部が開催されている催しにご参加いただきたいと思っています。6月に開催された総会においては本年度の事業計画が承認されました。より多くの会員の皆さまのご意見が反映される学会運営をしていきたいと思っています。

ところでその総会後のシンポジウムにおいては、期限付きの研究部会活動で「インテリア製図通則」をまとめた部会員の先生がたからのご講演がありました。永年に亘る研究成果で参加者にとっては大変内容の充実した発表を拝聴する機会となりました。地道な活動ですがインテリア業界全体の学術の中心となるという本会のミッションのために欠くことのできないテーマに取り組まれています。その成果が本会報に掲載されましたのでぜひご一読ください。

末筆になりますが、東京大会でも優れた研究発表が数多く行われることを期待しています。会員相互の議論を通じて、それぞれの研究がブラッシュアップされて、さらに本会論文報告集に投稿されることも願っています。

■2025年度（令和7年度）日本インテリア学会通常総会 議事録

〈記録〉曾根

日 時：2025年6月7日（土）13：30～14：00

会 場：千葉工業大学 津田沼キャンパス

出席者：横山（勝）、上野（義）、片山（勢）、渡邊、直井、井上、小澤、近藤（正）、白石（光）、曾根、高月、高柳、中井、中村、長山（信）、長山（洋）、棒田、松崎、市村、大崎、加賀屋、川島、河村、徳田（合計24名）

配布資料：

- 1) 2025年度（令和7年度）日本インテリア学会総会資料
- 2) 令和7年度 住まいのインテリアコーディネーションコンテスト／令和7年度 キッチン空間アイデアコンテスト

議 事：

1. 開会宣言・会長挨拶

横山会長からの挨拶の後、白石総務委員の進行で議事に移った。

2. 定足数の確認

出席者24名、委任状93通、合計117で、総会の成立に必要な定足数（71名、正会員281名の1／4以上：会則15条）を満たしていることが確認された。

3. 議長団選出

議長および書記の選出に際し、総務委員会案により、議長を横山会長、書記を曾根総務委員、議事録署名人を長山（洋）理事・大崎評議員の2名に依頼し、横山会長の進行により議事に移った。

4. 第1号議案：2024年度（令和6年度）事業報告および決算の承認（資料1）

- ・松崎総務委員長より、2024年度（令和6年度）の事業報告および決算報告について、資料に基づき説明がなされた。
- ・〈収入の部〉は、予算額合計が7,154,033円、決算額合計が7,639,747円、差額が485,714円であった。
- ・〈支出の部〉は、予算額合計が4,950,000円、決算額が3,380,799円、差額が1,569,201円、次年度繰越金の決算額が4,258,948円であった。
- ・監査報告書が白石総務委員により代読され、監査の結果、2024年度収支決算に問題ないことが報告された。
- ・以上に基づき、審議の結果、2024年度（令和6年度）の事業報告および決算報告は、異議なく承認された。

5. 第2号議案：2025年度（令和7年度）事業計画および予算の決定（資料1）

- ・松崎総務委員長より、2025年度（令和7年度）の事

業計画（案）および収支予算（案）について、資料に基づき説明がなされた。

- ・〈収入の部〉の予算額は、繰越金4,258,948円、会費収入2,773,500円、事業収入700,000円、雑収入10円（利息）で合計7,732,458円とした。
 - ・〈支出の部〉の予算額は、事務局経費850,000円、旅費50,000円、印刷費1,500,000円、通信費100,000円、会議費50,000円、委員会活動費880,000円、支部活動費420,000円、調査研究費200,000円、大会準備費500,000円、予備費150,000円、以上の支出計4,700,000円と繰越金3,032,458円の合計は7,732,458円とした。
 - ・2024年度の大会準備金の戻し金（約25万円）は2025年度に入ってから振り込まれたため、本総会資料には反映されていない。2025年度予算に加算されることとなるので、正式な金額を確認後に資料を修正する旨、説明があった。
 - ・以上の説明に基づき、審議の結果、2025年度（令和7年度）の事業計画（案）および予算（案）について、異議なく承認された。
 - ・予算額の修正があるため、あらためて監事による確認を得た上で、最終版の資料を会員に発送することとなった。
- #### 6. その他
- ・名誉会員の推薦について、今年度は該当者なしとの報告があった。
 - ・2025年度第37回大会（関東・東京）について、高柳関東支部長 兼 大会実行委員長より報告があった。11月8日（土）・9日（日）、東京都市大学世田谷キャンパスにて開催される。見学会・トークセッション（カリモクリサーチセンター・カリモクコモンズ）、記念講演会（永山祐子氏）、懇親会についての案内がなされた。
 - ・2025年度第32回卒業作品展について、高月表彰委員長より報告があった。大会日程に合わせたWEB開催とし、全国のインテリア関連校に案内を送っている。広い分野の作品を対象としながら、インテリアとしての位置づけを担当教員に記載してもらう形をとっているとの説明がなされた。
 - ・上野副会長より、一般社団法人日本トイレ協会による連続講座（全6回）の案内があった。資料は本学会ホームページにも掲載されている。
 - ・松崎総務委員長より、「令和7年度 住まいのインテリアコーディネーションコンテスト」「令和7年度 キッチン空間アイデアコンテスト」の案内があった。（資料2）

以上

※ 6月7日（土）に開催された通常総会においてご承認いただきました令和6年度決算報告および令和7年度予算案につきまして、総会終了後、会費収入額の一部に誤りがあることが判明いたしました。誠に申し訳ございません。正会員の皆さまには、すでにメールまたは書面にて訂正のご案内を差し上げ、入力フォームよりご承認の可否についてご回答いただきました。その結果、理事会、評議員会、および総会の各段階において、過半数のご承認をいただきましたことをご報告いたします。今回の訂正は、会費収入の一部記入漏れによる単純なミスであったことから、入力フォームを通じて承認の確認を行うという対応をとらせていただきました。今後は、事務局の確認体制を一層強化し、経理業務に万全を期す所存です。重ねて深くお詫び申し上げます。

総務委員長 松崎 元



総会（写真撮影：棒田邦夫）

■シンポジウム

□インテリア製図通則〈報告〉

長山洋子（Y00インテリア研究室代表）

インテリア製図通則に関するこれまでの活動と今後について

本稿は2025年度（令和7年度）日本インテリア学会のシンポジウムで発表した内容をまとめたものである。

なお、文体は各発表者の表現のままとした。

1. インテリア製図通則作成の経緯

住宅・インテリア産業の発展に伴い、生活の容器としての建築（箱）だけではなく、暮らしにおける家具・ファブリック・ウインドトリートメント、家電機器等のエレメントを含めたインテリア空間全体を表現する製図法である「インテリア製図通則」を要望する声があがった。そこで、1998年より日本インテリア学会関東支部^{*1}において調査研究を開始し、過去の研究を踏まえてインテリア産業界、教育界における表現手法の現状および要望を精査した。その後発足したCAD部会^{*2}で、JIS規格およびISO規格に適合する製図法のあり方を研究し「インテリア製図通則」（2014年第1次案）を作成した。さらにアンケート・ヒアリング調査を実施し、検討・改訂を加え2016年10月23日に「インテリア製図通則」をまとめ、学会HPで公開している。（表1参照）

表1 インテリア製図通則：研究発表の経緯

（1）関東・東北支部 インテリア製図法実態調査（プレゼン手法研究会）	
1998年10月	第10回大会講演「インテリア表現手法に関する調査報告」白石克彦他
2001年10月	CAD部会創設 インテリア製図法調査研究（製図法WG）
2004年10月	第16回大会梗概集「インテリアの製図表現における表現手法の現状」岡本一紀他
2010年10月	第22回大会梗概集「インテリアの表現と図面のルール」河村容治他
（2）CAD部会インテリア製図通則（第1次案）提案	
2011年3月	論文報告集第21号「インテリア製図通則（第1次案）の考え方」奥田宗幸他
2011年1月	日本建築学会（丸善（株））「コンパクト建築資料集成（インテリア）」河村容治
2012年～	「インテリア製図通則（第1次案）に関するアンケート調査」
2013年3月	論文報告集第23号「インテリア製図通則第1案に関するアンケート調査報告」長山洋子他
2013年10月	第25回大会梗概集「インテリア製図通則（第1次案）に関するヒアリング調査」川島平七郎他
（3）CAD部会「インテリア製図通則（日本インテリア学会）」学会基準完成	
2014年7月	パンフレット「インテリア製図通則・同解説」日本インテリア学会（製図通則部会）
2014年10月	第26回大会理事会・総会において「インテリア製図通則」を学会基準として承認
2015年3月	論文報告集第25号特別報告「インテリア製図通則の解説」川島平七郎他
2016年10月	パンフレット「インテリア製図通則・同解説」日本インテリア学会（製図通則部会）
2020年頃～	「インテリア製図通則（日本インテリア学会）」学会HPにて公開（ダウンロード可）

表2 製図通則部会（期限付き研究部会）の活動：研究発表の経過

(4) 製図通則部会インテリア製図通則（英語版）を通じての国際交流	
2021～22年	製図通則部会（期限付き部会認定） 整備と体系化（2022年：第1回～第10回）インテリア関連資格試験との整合分析
2023～24年	英訳と国際発信準備（2023年度：第11回～第20回）インテリア製図通則英語版の作成開始、アンケート案（製図通則の有無・資格制度・教育状況）、外国送り先リスト作成（目標100カ国）
2022年10月	第34回大会梗概集「インテリア・建築分野の資格試験における製図試験概要の比較」江川香奈他
2023年10月	第35回大会梗概集「インテリア・建築分野の資格の製図試験における高さ表記方法の比較」江川香奈他
2024年11月	第36回大会梗概集「インテリア・建築分野の資格製図試験テキスト等における記載内容の比較」江川香奈他
2024年～	国際配信とアンケート調査開始（2024年：第21回～第30回）インテリア製図通則日本語版+英語版セット公開、アンケートフォーム運用開始、
2025年～	普及実態・教育実態調査への展開（2025年：第31回～第35回）進行中、インテリア産業協会 助成申請（教育・実務実態調査）日本と外国の通則比較調査、総会シンポジウム⇒製図通則の位置付けと展開の周知
2025年6月	(公社) インテリア産業協会調査・研究補助申請予定

注：研究組織と構成メンバー（50音順）

- * 1：関東・東北支部プレゼン手法研究会：稲田深智子・岡田悟・奥田宗幸・川島平七郎・河村容治・白石克彦（故人）・長山洋子・渡辺秀俊
- * 2：CAD部会製図法WG：奥田宗幸・川島平七郎・河村容治・白石勝彦（故人）・長山洋子（他2名）
- * 3：製図通則部会（期限付き研究部会）：岩井一幸・江川香奈・奥田宗幸・大崎淳史・金子裕行・川島平七郎・河村容治・町田瑞穂・ドロテア・溝渕匠・長山洋子

2. 期限付き研究部会「製図通則部会」の発足と活動

インテリア製図における図面表現の標準化推進のため、製図通則部会*3を発足させた。本学会の基準となっている「インテリア製図通則」を教育・実務現場での指導・活用の支援を目的に活動を開始した。また、同通則の英語版を作成したうえで、インテリアのデザイン、産業・教育に関わる世界の組織に呼びかけて、インテリア製図法の現状を把握・共有し、より実用的かつ普遍的な図法への発展を目指している。

2024年度に2期4年の期限を終えたが、活動は現在も継続している。今後は、BIM/CAD時代に対応した適用体系の再検討が求められており、実務と教育の双方を対象とした現状把握を行い、「インテリア製図通則」を基準に、インテリアエレメント・各種記号の適用実態等を調査することで、実務・教育現場における課題や共通点を明確化し、本製図通則のさらなる改訂や教材開発に資する基礎資料を整備していく。（表2参照）

（以上文責：川島平七郎）



3. インテリア製図通則に基づく図面表現の要点

「インテリア製図通則」に従って図面を作成するにあたり、どのような点に注意すべきか、参考図を見ながらポイントを絞って説明します。縮尺は1/50を標準にしています。

(1) 概要

インテリア製図通則は、インテリア空間の企画・計画から生産・施工に関わる図面に適用され、プレゼンテーション用の表現は対象外とします。

線の太さは、細線、中線、太線の3種類を uses。細線は細部の表現や基準線・寸法線、中線はエレメントの輪郭線、太線は断面の表現に用います。それぞれの線の太さの比率は、1：2：4とし、目視で明確に区別できるように設定します。なお出力環境によって実際の線の太さは異なるため、ここでは具体的な数値の指定はしません。

寸法は、内法寸法を基本とします。開口部については、その位置と開閉方向を表記します。平面図では平面方向の寸法の表記、展開図では高さ関係の寸法を中心に表記します。寸法を記入する際の注意点としては、平面図と展開図の役割を明確化し、寸法が出来るだけ重複しないようにします。

各図には、使用した記号の凡例をそれぞれ示します。

(2) 平面図（インテリア製図通則 参考平面図参照）

平面図は、床上概ね1mの高さの水平断面を表現します。建築躯体・仕上・設備に加え、家具・ファブリックスや家電機器等のインテリアエレメント、その他生活用具も併せて表現します。

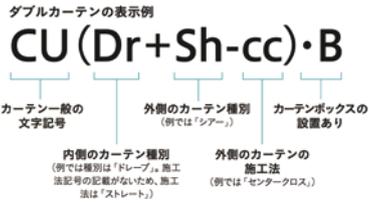
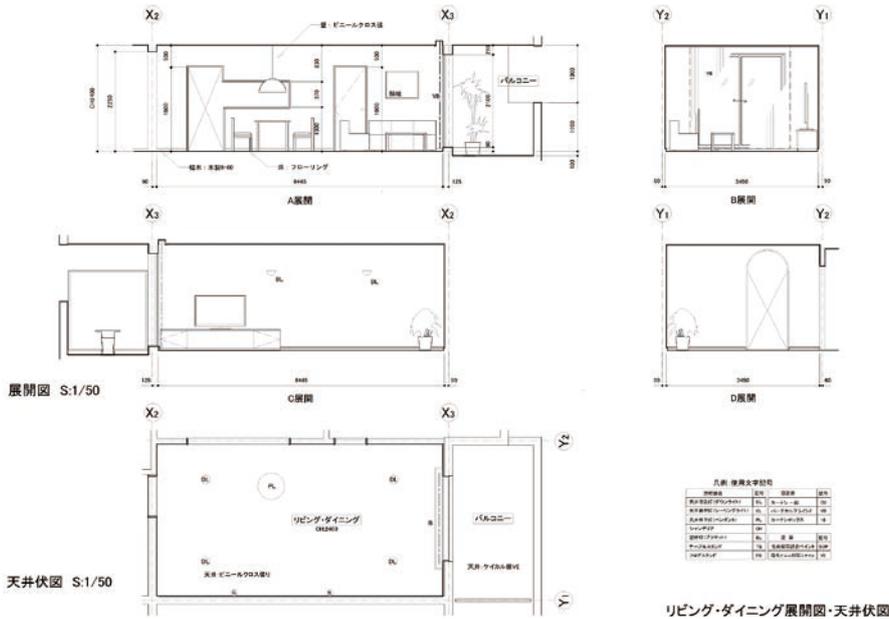
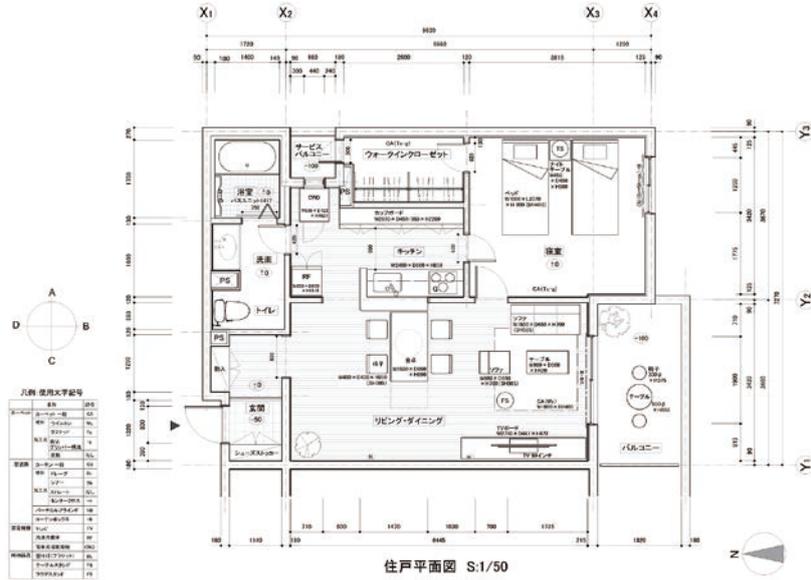


図1. ウィンドートリートメント表示例



図2. カーペット表示例



壁の仕上線は太線を用い、開口部には有効寸法を記入します。壁際にドアがある場合は、100mm以上の袖壁を設けます。PSには壁の厚みを表現します。

室名は口の中に表記し、各室の床レベルを基準面からの高さの差で表記します。

床の仕上は、文字表記だけでなく、目地等で質感を表現します。

家具の表現には、外形に中線、細部の表現には細線を用います。形状に加えて、名称と寸法を併記し、座面の高さやマットレスの高さなどを（ ）内に付記します。

動作寸法が確保できている事を示すため、イス等は机から離して配置します。置き家具は、造作家具と区別するため、壁面から離して配置します。収納家具の扉の開閉角度は30°とし、建具（扉窓など）の開閉角度90°と区別します。

ユニットバスは、形状を内法で表現し、呼称寸法を併記します。

床置・壁付の照明器具や、グリーンなどのインテリアエレメントも記入します。

ウィンドートリートメントは、形状を一点鎖線などで

表現し、略号・種別・施工法を文字記号で表示します。**カーペット**は、一点鎖線で領域を示し、略号・種別・施工法を文字記号で表示します。図面例（リビング・ダイニングのソファまわり）では、施工法が置敷（記号なし）であるため、記号の記入は省略します。

（3）展開図・天井伏図（インテリア製図通則 参考展開図・天井伏図参照）

展開図は、正面壁から概ね1m後退した位置で見た正面図です。左右端部は断面を表現し、巾木・回縁がある場合はその断面も表現します。建具のない開口は×で表現します。手前にある家具も表現します。家具の表現においては、ソファの下部の脚など詳細を意識します。**ウインドートリートメント**や**添景**は、形状がわかるように表現を工夫します。

天井伏図は、天井面から概ね0.5m下がった高さでの鏡面に映る図です。カーテンボックス、天井仕上、照明器具等を表現します。

ここで使用している「**展開図**」という用語は、建築で用いられる展開図とは表現内容が異なります。それを区別する意味で「インテリアコーディネーターハンドブック」（注1）で使用している「**インテリア立・断面図**」を用いた方がよいという意見もあります。

注1：公益社団法人 インテリア産業協会「インテリアコーディネーターハンドブック 統合版」下P223

（以上文責：河村容治）

4. BIM/CAD時代におけるインテリア製図法の調査研究（案）

本研究は「インテリア製図通則」を基準に、インテリアエレメント・各種記号の適用実態を調査し、実務・教育現場における課題や共通点を明確化することを目的とし、具体的には以下の観点に着目する。

- ・インテリアエレメントおよび記号類の適用ルールや慣習
- ・実務現場の適用ルールと通則との一致度・乖離度
- ・インテリアエレメントや記号の適用方法が図面の分かりやすさや情報共有に与える影響

これらを踏まえ、①通則の見直しと適用体系の再整理、②教育・実務の両方で利用できる補助資料・教材の作成、③BIM/CAD環境で利用しやすいテンプレートやライブラリの整備促進を行う。

こうした取り組みを通じて、インテリア製図の標準化を推進し、設計・施工・教育間の円滑な情報共有を実現することを目指す。（以上文責：大崎淳史）



司会・進行：長山洋子（写真撮影：高月純子）

■ 懇親会

16：00～約20名の会員が集い歓談を行いました。参加した会員同士で日常の近況や大会の内容についての質疑応答もあり、楽しい2時間を過ごしました。



懇親会での懇親風景（その1）

（写真撮影：棒田邦夫）



懇親会での支部報告風景（その2）

（写真撮影：棒田邦夫）

■第37回日本インテリア学会大会（関東） 開催について

関東支部長 高柳英明（東京都市大学）

本学会員の皆様におかれましては、日頃より大変お世話になっております。2025年度 第37回大会（関東・東京）は、11/9（日）開催、「インテリアデザインの最前線 ～東京で交差する知のシナジー～」を開催コンセプトに据え、東京都市大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区玉堤1-28-1、最寄り東急『尾山台』駅下車）にて対面開催致します。

昨今の専門業務のAI・DX化の流れを背景に、インテリアデザイン・室内環境創造の現業や教育現場においても、多様化・多視点での取り組みを余儀なくされており、まさに潮目にあると感じます。この問題意識のもとJASIS関東支部では、昨年度より『連続セミナー：多様な価値基準と呼応するインテリアデザインの最前線』（通算参加者数330名）を通じて「インテリアと投資」「EC併用商業空間」「パッシブデザインとインテリア」「睡眠と居室」「英国式ムードボード活用術」と多種多様な知のシナジーを醸成して参りました。

本大会は上記ムーブの延長と位置づけ、研究交流等を行いたく存じますので、大会ご参加・ご発表にあたられます際は、「人間」を中心に据えた学問であることには変わりないものの、一段拡張（？）した分野・視点からのご研究・取り組み報告などを歓迎致します。

また記念講演には、建築家の永山祐子氏を迎え、建築づくりの側から今後のインテリアの在り方についてご示唆を頂く貴重な会になること請け合いです。また11/8（土）の大会前日には見学会・研究交流懇親会も予定しておりますので、多数のご参加・事前登録をお願い申し上げます（詳細は別添大会案内を御覧ください）。

大会長：野城智也（東京都市大学 学長）、実行委員長：高柳英明（東京都市大学 教授）、副実行委員長：内田和彦（株式会社オカムラ）、大会幹事：谷口久美子（文化学園大学 教授）・曾根里子（同 准教授）・伊藤香織（旭化成）江川香奈（日本大学 准教授）・山田智彦（スタジオバッテリー）・嶋田拓（株式会社 明野設備研究所）・松本吉彦（松本住ソフト企画室）・久米村秀明（東京ガス）・加賀屋りさ（東京都市大学 助手）・山口愛加（関東支部幹事）他

□総務委員会

委員長 松崎 元（千葉工業大学）

6月7日（土）、千葉工業大学 津田沼キャンパスにて、令和7年度 第1回理事会・評議員会、通常総会、シンポジウム、そして研究交流会を開催いたしました。ご多用のなか、北海道から九州まで全国各地よりご参加いただいた会員の皆さまには、貴重なお休みを割いてご出席いただきましたこと、心より感謝申し上げます。毎年この時期に皆さまとお会いできることは、総務委員会としても大変喜ばしいことです。終了後には、恒例となっているささやかな交流会も催されました。会場では、直接お顔を拝見しながら、シンポジウムで得られた知見や最新の研究動向について意見を交わすとともに、会員同士の近況報告や、学会を通じた思い出話など、世代や所属を超えて和やかな交流が繰り広げられました。こうした場が、学会活動のさらなる発展や新たなネットワーク形成のきっかけとなっていることを改めて感じる機会ともなりました。

来年度は役員改選の年にあたります。選挙管理委員会を設置し、年末から年明けにかけて、各支部において評議員の選出をお願いすることとなっております。支部長の皆さまには、お忙しい時期にご負担をおかけしますが、円滑な学会運営のため、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

■運営部門だより

□論文審査委員会

委員長 村井裕樹（日本福祉大学）

論文報告集36号は9月30日投稿締切で今年も募集をおこなっています。今回より、以前から検討していました論文投稿のシステムが変更となります。これまでは、論文投稿はメールでお送り頂いていましたが、今回よりウェブフォームによるアップロードとなります。フォームはインテリア学会のウェブサイトにありますのでご確認ください。大きな変更となりますので、不具合等が出る可能性もあるかもしれません。その際は論文審査委員会へご連絡頂けますと幸いです。今後ともよろしくごお願い致します。

□広報委員会

委員長 樺田邦夫（金沢学院大学名誉教授）

広報では会員の皆様への充実した情報掲載を目指すために今年度より①2ヶ月ごとのZoom定例委員会の実施②会報・Zoom・ホームページの各担当者を置くことにしました。これによって単なる報告記事ではなく、会員のための情報誌として「必要としている・求めている」内容の提供を目指していくことにしました。そのためには会員の活動を取材に行くこともあるかと考え、情報取材に伺う委員のお顔と人物を知ってもらうために巻末に委員の紹介を掲載いたしました。ご一読ください。

それとよくある質問ページ「Q&A」を用意しました。トップページの「事務局」を「事務局・Q&A」としてすぐ利用できるようにしました。現在、委員の間で質問内容を出していただいております。

□表彰委員会

委員長 高月純子（女子美術大学）

現在、第37回大会での学生論文発表の審査・表彰の準備、第32回卒業作品展の実施と表彰の準備を進めています。卒業作品展は7月末に登録が終了し、過去最多の50校の教育機関が出演予定となりました。

あらためてですが、表彰委員会の活動目的は主に四つです。①規定に沿って本学会の目的の達成に貢献された学会員の研究や実践について表彰する。②インテリアを学ぶ教育機関の卒業作品展の開催と優秀な作品について表彰する。③必要に応じて表彰規程の見直しと改訂を行う。④表彰制度の周知と充実を図る。表彰することで、表彰されたかたの今後の活力の一助となることは嬉しい事です。また、表彰はそれだけでなく「世の中に広く明らかにする」性質を含みますから、公表されると、その内容が人々の耳目を集めることとなります。出版業界の賞、映画の賞は分かりやすい例ですが、全くその分野内容にそれまで興味がなかった人にも働きかけて思考の契機になる、表彰にはそのような力があると思います。その役割が果たせるように、委員会活動の中で今後も工夫をしたいと考えます。

現在、第37回大会での学生論文発表の審査・表彰の準備、第32回卒業作品展の実施と表彰の準備を進めています。卒業作品展の登録方法については、教育機関へのメールでの案内のほか、学会HPに掲載しております。どうぞよろしくお願いたします。

日本インテリア学会 2025年度第32回卒業作品展

Japan Society For Interior Studies
The 32th Graduation Exhibition 2025



□デジタル化推進委員会

委員長 井上 徹（芦屋大学）

報告はありません。

■研究部門だより

□研究部門

研究部門長（副会長） 渡邊秀俊（文化学園大学）

現在、本学会の研究部門には、「歴史研究部会」「人間工学研究部会」「教育研究部会」の常設の研究部会のほかに、「期限付き研究部会」の計4つの部会が設置されています。このうち「期限付き研究部会」は、今の時代に適した研究や基盤と基礎的な研究等を目的として、毎年、公募により設置される時限付きの研究部会です。

社会状況の変化の激しい今日においては、喫緊の課題を対象にしたアドホックな研究部会があるべきという理念のもとに設置されたのが「期限付き研究部会」です。この部会の設置期間は当該年度12月から翌年度3月までの1年半弱です。活動終了後には、報告書が学会に提出され、その成果は大会梗概集または論文報告集において報告されます。

公募要領と設置申請書は、毎年7月にご案内させていただいています（申請締切は10月31日）。毎年、2～3部会で合計10～15万円程度の予算を予定していますので、多くの会員の皆様からの申請をお待ちしています。既に活動を終了した期限付き研究部会の成果報告書等は、学会ホームページに順次掲載されますのでご覧ください。

□歴史研究部会

部会長 清水隆宏（愛知工業大学）

先日、歴史研究部会員の金田美世さんに同行させていただき、京都市内某所でのステンドグラス調査に行ってきました。ステンドグラスの専門家である金田さんの所へ、取り外されたステンドグラス（建物は解体済み）を引き取り保管されている現地の先生から、その（DIYでの）補修や今後の活用方法等への助言を求める依頼があったためです。予算も人材も限られた状況下でも貴重なステンドグラスを無駄にせず、興味を持ち意欲的な学生さんを集めて課外活動として、今後の活用に向けて努力される姿に感銘を受けました。

解体された建築から装飾的な部材が取り外され、歴史の記録・学術研究・展示利用・学生教育への活用等を目的として保管されることがあります。元の場所で元の通り使われ続けることが理想ですが、建築や室内空間は、他の美術工芸品等とは異なり、様々な理由により解体・撤去されることが多くあります。もし皆さんの身の回りで、貴重な文化財がただ失われてしまいそうな場合、自身ではどうしようもない場合は、歴史研究部会にご相談いただくこともご検討ください。建築、家具、ステンドグラス等を専門とする委員が何かご協力できることがあると思います。

□人間工学研究部会

部会長 白石光昭

2025年度第1回人間工学研究部会研究会のお知らせ

1) 概要

ル・コルビュジエの世界一小さい世界遺産と言われる終の棲家でもある「カップ・マルタンの休暇小屋」をものづくり大学内にレプリカを製作された藤原成暁先生（ものづくり大学名誉教授、特別客員教授、藤原成暁設計室主宰）からご講演をいただけることになりました。

人間工学研究部会主催の研究会になっておりますが、人間工学関連の内容に限らず、ル・コルビュジエの設計思想等の様々な知見についてお話を頂けることになっております。ぜひ多くの会員の方のご参加をお待ちしております。

2) 開催日時：

2025年9月27日（土）13：30～16：40

講演会と見学会（質疑応答）を予定しています。

3) 申込について

8月下旬（8月27日予定）より本学会ホームページに研究会詳細を公開しますとともに、参加希望者のお申し

込みに対応いたしますので、ご関心のある方は学会ホームページ人間工学部会をご確認ください。

（なお、見学場所の関係から参加可能人数を20名とさせていただきます）

□教育研究部会

部会長 金子裕行（千葉県立市川工業高等学校）

報告はありません。

□期限付き研究部会

部会長 渡邊秀俊（文化学園大学）

期限付き研究部会では、毎年、今の時代に適した研究や基礎的な研究等を公募しています。2024年度に終了した期限付き研究部会は以下の2件です（設置期間：2023～2024年度、○：研究代表者）。

1) 20世紀後半の発達と変遷から見る我が国のインテリアの特質の研究、○矢部仁見（帝塚山大学）、片山勢津子（京都女子大学）、中村孝之（生活空間研究室）

2) 製図通則部会（継続）、○長山洋子（Y00インテリア研究室）、奥田宗幸（東京理科大学）、川島平七郎（居住環境学研究所）、河村容治（河村工房）、江川香奈（日本大学）、大崎淳史（東京電機大学）、金子裕行（市川工業高校）、岩井一幸（東京家政大学）

2024年度に新たに設置された研究部会は以下の1件です（設置期間：2024～2025年度、○研究代表者）

1) 様式史からモダンデザインへ継承された椅子の機能・役割とその背景に関する研究部会、○黒田智子（武庫川女子大学）、矢部仁見（帝塚山大学）、南智子（摂南大学）

本年度も多くの会員の皆様から、期限付き研究部会の設置申請をお待ちしております。応募締め切りは10月31日になります。

■支部だより

□北海道支部

支部長 小澤 武（小澤建築研究室）

報告はありません。

□東北支部

支部長 市岡綾子（日本大学）

3月12日のwebによる支部総会には5名が出席し、今

後の活動に向けて、様々な意見交換を行うとともに、出席会員の研究報告を実施し、交流を深める機会となりました。改めてお互いの研究内容を伺い、インテリア分野の幅広さと地域性を有する課題を共有いたしました。会員の活動拠点が広域にわたるなかで、交流を深めつつ支部活動の活性化を目指し、卒業研究の成果を発表する機会を試みる方向性が見いだされました。既に実施されている他支部の状況を情報収集し、今年度の支部総会時に開催の運びとなるよう準備を進める所存です。対面開催は難しいかと存じますが、東北支部らしい活動となるよう努めてまいります。

□関東支部

支部長 高柳英明（東京都市大学）

今年度の関東支部は、兎に角第37回大会開催の無事を祈るのみですが、6月開催の理事会懇親会にて少し議論になった「インテリア學術の拡がりとその系譜」については、別途議論の場所を設ける必要を感じています。特に學術研究者と、デザイン現業で一線を張っておられるデザイナーとの盛んな交流・意見交換は必須であると存じます。特にデザイン現業ではアジアを中心に熱いムーブメントが見られますし、學術分野ではやはりデータドリブンな研究テーマが興味深いのではと思われます。これらの交流は本年度大会の開催テーマにもなっていますので、11月大会にご参加の際は、是非とも新たな『出会い』と『知のシナジー』を皆様にご期待したく存じます！

□東海支部

支部長 中井孝幸（愛知工業大学）

対面式とオンラインのハイブリットにて、2025年3月24日に令和6年度第6回支部役員会（9名参加）、2025年5月20日に令和7年度第1回支部役員会（7名参加）を開催しました。ともに、令和7年度の東海支部総会の内容、講演会の講師、見学会などについて検討を行いました。

東海支部総会は2025年7月26日（土）に愛知工業大学を会場とし、坂茂建築設計の菅井啓太氏を講師に講演会を実施する予定です。また、今年度の見学会も他支部の交流と懇親を兼ねて、北陸地方とすることで検討を進めることになりました。

□北陸支部

支部長 長山信一（富山大学名誉教授）

「令和7年度JASIS 北陸支部総会」を6月29日（日）に開催した。

（北陸支部は、予め「令和7年度JASIS総会」の議事資料

等はメール配信済み）

■ 午前、「富山市環水公園スターバックス」集合、待合せ・情報交換の時間を取った。

その後、「富山県立美術館」に向かい、「石岡瑛子「I」デザイン展」を見学した。

当日は、30℃を超える真夏日で、同展覧会の最終日でした。

石岡瑛子が東京を拠点に1960～1980年代の仕事を中心に、話題を呼んだ、ポスター（資生堂・前田美波里）・CM（パルコ）・グラフィック・アート（角川文庫）・ファッションショー～スケッチまで、約500点の作品が公開されていた。また、80年代初頭に活動拠点をニューヨークに移して以降、美術・衣装・デザインなど、ボーダーレスに仕事の領域を広げ、アルバム「TUTU」でグラミー賞、舞台「M. バタフライ」でニューヨーク批評家協会賞、映画「ドラキュラ」でアカデミー賞を受賞、他があった。

■ 午後、富山市立図書館が入居する複合施設「TOYAMAキラリ」内にある「富山市ガラス美術館」を尋ねた。隈研吾氏の設計で、御影石・ガラス・アルミの異なる素材を組み合わせて、立山連峰をイメージした外観であり、内部は富山県産材のルーバー（羽板）を活用した、温もりある開放的な空間である。当日は、常設展の「コレクション展」・「ガラス・アート・パサージュ」・「ガラス・アート・ガーデン」などを鑑賞した。

■ 以上を持って、「令和7年度JASIS 北陸支部総会」を終了した。

◎ 次回のJASIS北陸支部活動は、12月13日（土）～14日（日）頃に、東海支部支部長の中井氏が北陸見学会を計画中とのこと。そのタイミングに合わせて、交流会を開催出来ればとのこと。当支部も、日時が明確になり次第対応したい。



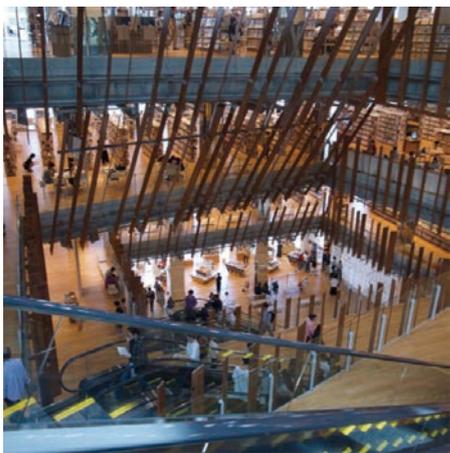
【スターバックス富山環水公園店】：スターバックス「ストアデザインアワード最優秀賞」受賞し、「世界一美しいスタバ」として有名



〔富山県立美術館〕（富岩運河環水公園からの遠景）内藤廣（設計）



〔富山市ガラス美術館〕〈TOYAMA キラリ〉隈研吾（設計）



〔富山市ガラス美術館〕（インテリア）

□関西支部

支部長 中村孝之（京都大学）

今年度は、5月17日に評議員会・総会を、グランフロント大阪ナレッジサロンで開催しました。今年度の支部活動として、内容の充実と集客を考えた時代性のあるテーマを設定した講演会、見学会と、恒例となった学生

研究発表会を実施する予定を確認しました。当日には、今春、グラングリーン大阪の中核機能施設としてオープンしたオープンイノベーション施設「JAM BASE」を見学しました。ナレッジサロンと並ぶ大阪の中心に企業、大学・研究機関、スタートアップなどによる共創の拠点が誕生しました。6月14日には、阪神間に1900年台初期に建てられた2つのミッション系の女学院の見学会を開催しました。モダニズムの先駆者としてのアントニン・レーモンド設計の小林聖心女子学院（1924）と、スパニッシュミッション様式を取り入れたウィリアム・メリル・ヴォーリズ設計の神戸女学院（1933）を、大阪芸術大学名誉教授／山形政昭先生にご案内いただき、それぞれの学校の思想や建物の特徴を対比しながら見学できました。今後、講演会や研究発表会などは、できる限りハイブリッドで開催し、他支部からも参加していただければと考えますのでどうぞよろしくお願いいたします。



グラングリーン大阪JAM BASE



小林聖心女子学院にて

□中国・四国支部

支部長 谷川大輔（近畿大学）

中国・四国支部では、令和7年7月5日（土）15：00～16：00 広島市にある『port.cloud』広島県広島市中区基町5-44 広島商工会議所ビル 9階にて、オンライン併用で、支部総会を行いました。昨年度の活動報告、決算報告などを行い、今年度の活動について議論しました。昨年度は、学生企画講演会として、照明デザイナーで広島工業大学准教授の木下 美沙先生に「メタファーとつながり」といった講演会を行うなど、支部の活動も活発に行われました。今年度は、10月4日（土）13：30-15：00から広島工業大学3号館 301製図室にて、オンライン（Zoom）と対面の併用で、建築家で広島工業大学教授の南雲要輔先生に「システムとディテール」と題したご講演をして頂くことになっております。是非ご参加ください。

また7月5日（土）の支部総会后、インテリアデザイナーで近畿大学工学部非常勤講師の高田由美先生に、

『アーキワーク広島の現在』と題して、建築見学会イベントについて紹介、ご講演頂きました。広島で毎年11月ごろ開催されている建築見学会イベント『ひろしまたてものがたり』について議論をし、有意義な時間を過ごしました。

□九州支部

支部長 近藤正一（日本文理大学）

1. 昨年度末に「日本インテリア学会九州支部支部長賞」を5件、授与しました（順不同・敬称略）

- ・九州産業大学 建築都市工学部 住居・インテリア学科 松堀 有希
- ・熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学専攻 深野 さくら
- ・日本文理大学 工学部 建築学科 田原 乃々花
- ・有明工業高等専門学校 創造工学科 建築コース 藤岡 真衣
- ・九州大学 芸術工学部 工業設計学科 インダストリアルデザインコース 中野 紗良

日本インテリア学会九州支部規約の第16条「支部長は支部会員（正会員に限る）の推薦を受けて、特にインテリアに関する成績・活動等が優秀と認められる者を表彰することができる。」に基づき、毎年度、各大学から1名を受賞候補者として推薦いただき、表彰しております。こうした取り組みが九州のインテリア界へ徐々に浸透していく過程の中で、これまで知られることなく埋もれていた価値ある活動が明らかにされ、インテリアを志す若者たちの励みになることを願っています。

2. その他

支部会員の関連する活動については順次、支部ウェブサイトに掲載して参りますので、ご参照ください。

■事務局だより

事務局長 棒田邦夫（金沢学院大学名誉教授）

教えてほしいことがございます。前号でも「会員名簿に無い名前での入金された方がいたのですが、今年度もどなたか分からないので困っております。

【みずほ銀行 [24-- 12- 27 振込「クラシノカガクエン」】

【みずほ銀行 [25-- 7- 15 振込「ヒロシマコウギョウダイ」】

【みずほ銀行 [25-- 6- 30 振込「セキスイハウス」】

【みずほ銀行 [25-- 7- 31 振込「シバウラコウギョウダ

イガク】

【みずほ銀行 [25-- 7- 31 振込「ゴトウイクエイカイ」】

【みずほ銀行 [25-- 7- 31 振込「カンキョウゾウケイガクエン」】

心当たりの会員は至急下記のメールか、電話でお教えください。大変困っております。もしかすると2025年度年会費請求が2年度分の請求をされているかもしれません。会員の大事なお金をお預かりする身としては大変心苦しい思いしております。

どうかご連絡ください。お待ちしております。

メールアドレス：jasis.jimukyoku@gmail.com

電話番号：080-2386-5652

□広報委員会の委員紹介

今年度より広報委員が1名増えました。が、まだまだ広報のお手伝いをしてくれる会員さんを必要としています。難しく考えずに自身の視野を広げ、人脈を広げるきっかけにしてください。

委員紹介は、広報の新たな取り組みとして委員の人物を知ってもらい、今後取材にお伺いした折の身分証明書と考え、掲載します。

どうぞよろしく願いいたします。

□広報委員会委員紹介

金沢学院大学名誉教授 棒田邦夫



金沢に生まれ、金沢美術工芸大学でデザインを学び、2年の社会経験を経て住宅設計、そのデザイン思考を学びたく、愛知県立芸術大学大学院に入学。大学院での2年間、建島嘉門教授にマンツーマンで先生の住宅論教授を受けました。今持って

先生の設計理念を受け継ぐ者の一人と自負しています。金沢に戻ってからは住宅設計・空間デザイナーとして切磋琢磨し、30代に入った頃に恩師である小松暁一先生の紹介で金沢学院大学の教壇に立ちました。日本インテリア学会は設立時に小松先生と一緒に入会し、多くの方々との親交を温めさせていただいております。

広島工業大学 上野友輝



日本近現代の建築家や都市計画家、作庭家の作家論研究を行っています。

母校で教鞭を執りはじめてからの近年は、庭園や建築の3Dスキャンニング・バーチャル復元から派生し、街並み空間のスキャンや古民家再生、商店街の活性化プロジェクトに取り組んでいます。

インテリア学会では広報委員会のほか、論文審査委員

会にも所属しており、微力ながらも貢献できればと努めています。

今後もご意見や改善点がございましたら、どんな些細なことでもお気軽にお知らせいただけますと幸いです。

2017年千葉工業大学大学院修了 二級建築士
インテリアコーディネーター 角田静香



大学院時代には橋本先生のご指導のもと、「オープンプラン小学校における児童の居場所づくり」というテーマで、普通教室に通う特別な教育的支援が必要な児童の観察調査を行い、対象児童のこころの拠り所になる空間の在り方を研究しました。現在はオフィス家具メーカーで空間デザイナーとして、オフィスのリニューアル設計を中心にコンセプト立案から実施までを担当しています。最近ではヨーロッパや北欧のデザインに興味を持ち、雑誌や事例を読むのを楽しみながら、英語の勉強にも力を入れています。

笹原デザイン設計室 代表取締役 笹原理介



山形県立新庄工業高校工芸科卒業後
(株)船場東京支店、(株)駒林、(株)升川ミサワホーム等を勤務ののち、
1985年(有)笹原デザイン設計室代表取締役となる。

資格：二級建築士、高等学校教諭一種免許(インテリア)、
木造住宅耐震診断士

所属団体：山形県建築士会山形支部正会員、木造住宅耐震診断士協会会員、日本インテリア学会正会員 広報委員

非常勤講師：山形県立産業技術短期大学校 建築環境システム科

平成14年から現在に至る

担当科目：前期[建築施工] 後期[生産工学概論][インテリア計画]

愛知工業大学 清水隆宏



私の勤務先のすぐ近くに、ジブリパークがあります。通勤でリノモに乗っていると朝は期待に胸を膨らませ、夕方は購入したグッズで膨らませた土産袋を抱えた多くの観光客を目にします。とても楽しそうです。

現在開催されている大阪・関西万博も多くの人が訪れています。メディアやSNSからの様々な情報、すでに行ってきた人の声もよく聞きます。やはり楽しそうです。

実は、この様に足を運ぶ十分な動機があるのに、私は両方ともまだ訪れていません。素敵な情報、十分な情

報、お得な情報、様々な情報が発信されても、それを受けて実際に行動する人は限られます。他人の心も、身体も、必ず動かす情報発信はできないだろうか。毎号欠かさず熟読したくなる会報、毎日閲覧したくなるHP、必ず参加したくなるイベント案内、こんなことの実現を夢見、広報委員会の活動に協力しています。

京都美術工芸大学准教授 白鳥洋子



東京藝術大学で建築を学び、フランスではエコール・ダルシクチュール、パリ・ラ・ヴィレットで都市デザインを、パンテオン・ソルボンヌで近現代建築史を学びました。帰国後は大学に勤務しながら研究と設計を続けています。東京大学の博士課程では、19世紀フランスの建築家、鉄構造の建築で知られるアンリ・ラブルーストの研究を行い、現在もこの研究を継続しています。設計では住宅の設計やリノベーションを担いました。インテリア学会ではたくさんの方々から暖かく接していただき、大変感謝しています。

積水化学 仲谷剛史



生まれ・育ちは兵庫県西宮市で、阪神タイガースのお膝元です。大学は京都工芸繊維大学で、加藤(力)研究室に所属。卒業後に積水化学に就職。その後、東京転勤を機に仕事をしながら修士で東京理科大学 直井研究室に所属し、博士で東京大学 西出研究室に所属しました。恩師全員がインテリア学会での会長・副会長を経験された先生方で、自分の中でもインテリア学会は大変「縁」の深い学会と感じています。仕事ではスマートハウスに関する研究開発をしています。今後もインテリア学会の発展に少しでも貢献できればと思っています。

積水ハウス株式会社 元川鳴子
～地域の物語を紡ぐ～



このコンセプトを念頭にインテリアコーディネーターとして石川県金沢市でマンションやホテルの新築に携わること13年、現在は横浜市で3歳・0歳きょうだい育児に奮闘しております。自宅はJapandi×BOHOスタイルを目指して日常的にお抹茶を楽しめるようにマンションリノベをしましたので、機会がございましたらご紹介して先生方からご教授賜りたく存じます。本学会へは金沢大学在学時に宮下孝晴先生ご指導のもと学位を取得後、広報委員長の棒田邦夫先生よりお声かけいただき入会いたしました。



フリーランス 倉谷優美

兵庫県出身。神戸松蔭女子学院短期大学の住居・インテリア・デザインコースに学びはじめ、神戸芸術工科大学を経て京都工芸繊維大学西田雅嗣研究室の博士後期課程まで進みました。

建築家の米原慶子、笹木篤、木原千利、木村博昭、山野松雄（敬称略、学んだ順）に学びました。昨年まで大和大学に勤め、人生初の卒業論文指導をする機会に恵まれました。大学では、建築学専攻に女子学生もおりましたが、高校生の内に建築分野に進むという視野を持つ学生は希少ではないかと思います。インテリアが、私に建築へのきっかけを提供してくれました。

■ 編集後記

広報委員 棒田邦夫（金沢学院大学名誉教授）

今年は暑い夏ですね。暑くてなかなか仕事が進みません。皆様はいかがでしょう。

私、この暑さですので仕事を午前11時から15時の間は避けて、朝方の5時から11時の間と15時から17時の間に仕事をするにしました。

会社勤めの方々はそうはいきませんが、幸い私年金生活者の傍ら個人事業、非常勤講師をしておりますので時間の融通がきくわけですね。始めて3週間立ちますが、やってみると朝方は特に集中力も増し、仕事の効率もいのように感じます。さらに、午前11時から15時の間お昼ご飯を食べた後読書、ビデオをみるのですが眠くもなるおかげでお昼寝も30分ほどできて、頭もスッキリ、気温も下がり、集中力もリセットされて良いように感じま

す。朝は個人事業に、会報編集は午後の時間で切り替えて行っております。

まだまだ暑い日が続きますので、ちょっとした気分転換でしてみたらどうでしょうか。

■日本インテリア学会会報第76号（2025. 8. 29発行）

編集者：棒田邦夫（委員長）

発行者：横山勝樹（日本インテリア学会会長）

広報委員会：上野友輝、角田静香、笹原理介
清水隆宏、白鳥洋子、仲谷剛史
元川鳴子、倉谷優美

■事務局

日本インテリア学会 事務局 村尾温子、棒田邦夫

〒920-0941 石川県金沢市旭町1-25-25

電話：080-2386-5652

e-mail：jimukyoku@jasis-interior.jp